平成 29 年度地域課題解決プログラム

公共施設アセットマネジメントの推進に向けた
各種コンテンツによる市民訴求の手法研究（盛岡市）

岩手大学教育学部 芸術文化課程 美術・デザインコース 映像メディア研究室学生チーム
（発表者：片柳香菜、鈴木祐衣）

指導教員：教授　本村健太（人社・芸文）

序

盛岡市は、厳しい財政運営が今後も見込まれる状況において、少子高齢・人口減少社会の到来を見据え、公共施設の維持管理のさらなる効率化や老朽化した施設の更新費用の低減・平準化を進める必要がある。そのため、自治体経営の取組に関する方向性の一つとして「公共施設アセットマネジメントの推進」を掲げ、平成 27 年度までに基本方針、向こう 20 年間の長期計画、10 年間の中期計画など、一連の計画を策定し、平成 28 年度からいよいよ実行段階に入ったところである。

計画策定に当たっては、市民討議会の開催や地区ごとの市民説明会など、市民意見を聴き、計画に反映させてきたが、中長期にわたる息の長い取組となる。今後においては、公共施設アセットマネジメントの意義を市民にわかりやすい形で広く発信し、取組の必要性を理解してもらい、幅広い世代に持続的に賛同してもらう必要があり、そのための手法として、映像や漫画といった各種コンテンツを活用した情報発信手法が有効であると考えられる。

そこで、本研究課題においては、学生の若い視点から、豊かな感性と柔軟な発想を市民訴求の手法研究に取り入れ、コンテンツの制作と情報発信の強化を行おうとするものである。

・公共施設保有の最適化と長寿命化（盛岡市公式ホームページ）：
http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/machizukuri/shitsuhoyu/index.html

上記の盛岡市の Web ページ情報によると、**「公共施設アセットマネジメント」とは、「施設、設備を資産として捉え、その損傷・劣化などを将来にわたり予測することや管理運営における費用対効果を詳細に把握しデータ化することなどにより、効果的かつ効率的な維持管理を行うための方法のこと」**をいう。

そして、この Web ページでは次のような情報が PDF ファイルで公開されている。

・公共施設保有の最適化と長寿命化のための基本方針：
「盛岡市自治体経営の指針及び実施計画」に基づいた、公共施設アセットマネジメントに関する具体的な取組方針

・公共施設等総合管理計画：
インフラも含めた市が保有する全ての公共施設等を対象とし、向こう 10 年間の施設保有の最適化や計画的な維持保全について、基本的な方向性と取り組みを定める行動計画

・公共施設保有最適化・長寿命化長期計画：
文化財・保存建造物・プラント施設などを除く建築物系施設について、向こう 20 年間の具体的な取組の方向性について

・公共施設保有最適化・長寿命化中期計画：

長期計画を円滑に推進するための、向こう 10 年間の具体的な個別施設計画について

・公共施設保有最適化・長寿命化実施計画（平成 29 年度～平成 31 年度）：

中期計画の円滑な推進のため、向こう 3 年間に実施する事業を毎年定めたもの

たしかに関連情報は公開されているが、一般市民が興味を持ってこの Web ページにアクセスし、掲載された PDF ファイルをダウンロードするような流れは想像しがたい現状がある。一つの指標として、この Web ページにある Facebook の「SNS シェアボタン」を参照すると、**「シェア 0」（ゼロ）**の状態（平成 30 年 3 月初旬現在）となっている。

また、ダウンロードしたとしても、その精緻な内容とグラフの推移は容易に理解できるものとは言いがたく、このあたりの解決をどのようにやっていくかが本研究課題の中心となる。

Ⅰ．本研究課題について

（実施計画・方法）

盛岡市の盛岡市財政部資産経営課の担当者の方々と研究室学生グループの間で協議を行い、必要なコンテンツの制作及び活用の計画を明確にする。まずは、学生側において盛岡市の抱える公共施設とそのアセットマネジメントの現状や課題を学習し、必要となるコンテンツの制作に取り掛かる。盛岡市側においては、コンテンツの活用を試験的に行い、その効果を検証する。改善点は、フィードバックして、よいよいコンテンツに洗練させていく。

〇合同会議（岩手大学芸術棟 2 階、視覚文化演習室にて）

・平成 29 年 6 月 1 日（木）- 初回打ち合わせ
・平成 29 年 6 月 29 日（木）- 公共施設アセットマネジメントの概要など（写真１）
・平成 29 年 7 月 27 日（木）- 漫画の設定について
・以後、個別会議や電子メールでのやり取りを必要に応じて実施

写真 1：岩手大学芸術棟視覚文化演習室における合同会議の様子

〇実施計画

初回の合同会議の結果として、盛岡市の公共施設アセットマネジメントに対する市民の関心を高め、市民の理解・共感を得るための推進策として、時系列順に、以下のようなことが計画された。

・「もりおか PPP プラットフォーム」のロゴマーク制作
・漫画による盛岡市の公共施設アセットマネジメントの紹介
・イオンモール盛岡（前潟）における「デジタルサイネージ」による広告
（・盛岡市の説明会資料用のイラスト制作）

また、それぞれの活動に対して担当できる学生をグループ分けし、それぞれの進捗状況によって、担当グループ毎に盛岡市財政部資産経営課の担当者の方々との個別ミーティングや電子メールでのやり取りを行うことにした。

[ロゴマーク制作]

公共施設マネジメントの着実な推進のため、平成 29 年度から盛岡市が設置する地域プラットフォームである**「もりおか PPP プラットフォーム」のためのロゴマーク**について、学生の視線でのデザイン案を提案することとした。

[漫画制作]

難解な「公共施設アセットマネジメント」の取り組みの意義について、分かりやすく市民に伝えるために、漫画の手法を採用する。市の主催する説明会での使用のほか、特に若者世代には知ってほしいという意図もあり、**盛岡市の成人式にて新成人全員に配布**することが目標として設定された。

[デジタルサイネージ広告]

広報活動の一環として、店頭などでディスプレイを使って広告配信をする仕組みである**「デジタルサイネージ」での広告**を行うこととした。盛岡市は市政情報をイオンモール盛岡（前潟）のデジタルサイネージでも発信しており、今回はその場での広報を目標にした。

II．今年度における研究活動の経過について

（結果・考察）

〇「もりおか PPP プラットフォーム」ロゴマーク

もりおか PPP プラットフォームは、公共施設マネジメントを着実に推進すること等を目的に、民間事業者の PPP／PFI に関するノウハウ習得と事業参画に向けた競争力強化を図るため、公共施設整備・管理運営等に関連する地場企業が、セミナー開催や意見交換等を通じ案件形成に向けた官民の情報共有及び対話促進を継続的に展開する場として、平成 29 年度から盛岡市が設置しているプラットフォームである。

この**「PPP」（Public Private Partnership の略）**とは、公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念であり、民間資本や民間のノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指す手法のことである。また、**「PFI」（Private Finance Initiative の略）**は、公共施設等の建設、維持管理、運営等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用す

ることで、効率化やサービスの向上を図る手法のことである。
　もりおか PPP プラットフォームは、盛岡市、株式会社岩手銀行、株式会社東北銀行、株式会社北日本銀行、盛岡信用金庫、盛岡商工会議所及び盛岡市建設業協同組合により、企画運営が行われている。

・もりおか PPP プラットフォーム（盛岡市公式ホームページ）：
http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/machizukuri/1017530/index.html

　平成 29 年 9 月 15 日（金)、学生グループが盛岡市財政部資産経営課の方々にロゴマーク原案（図 1、図 2）のプレゼンテーション（写真 2）を実施した後、参加者全員で最終案を決定して原案を洗練させるための意見を出し合った。

写真 2：岩手大学芸術棟におけるロゴマーク会議の様子

図 1：もりおか PPP プラットフォームのロゴマーク原案（梅木結一花）

図 2：もりおか PPP プラットフォームのロゴマーク原案（成瀬優美）

結果として、もりおか PPP プラットフォームのロゴマーク（図 3）が決定し、使用されている。

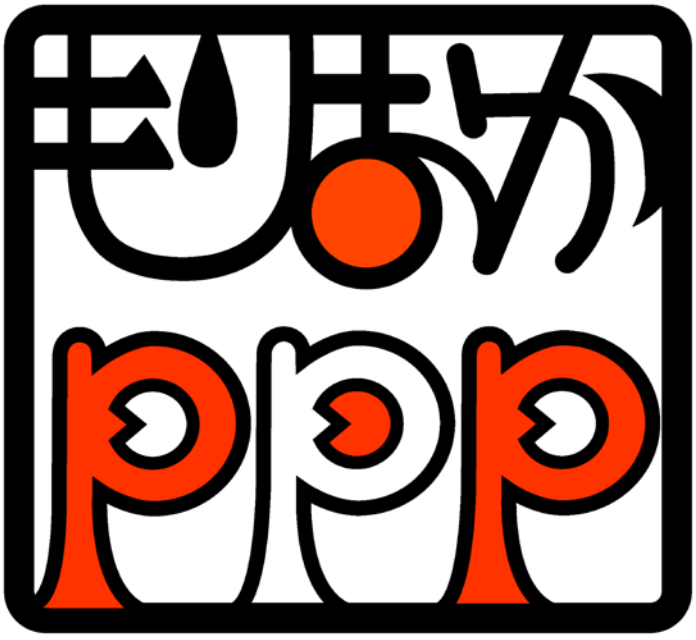


図 3：もりおか PPP プラットフォームのロゴマーク（最終調整：成瀬優美）

[PPP プラットフォームのロゴマークについて]

・長く親しまれるような古風で温かみのあるロゴマークを目指した。

・「もりおか」の 4 文字はそれぞれに木、水、太陽、月をイメージし、自然があふれる「もりおからしさ」を表している。

・「P」の内側は人が口を開けた形であり、中央の「P」の色が異なるのは「一様でない」ことを示している。対話の場としてのプラットフォームの役割や、異なる立場からの多様な意見を共有していくことを意味している。

・　「PPP」の末広がりの形には地域に根付いた取り組みになるようにという願いが込められ、各主体が成長しながらもりおかを形作っていく様が描かれている。

〇盛岡市公共施設アセットマネジメントを解説する漫画の制作

平成 29 年 7 月 27 日（木）の合同会議（写真 3）において、漫画の設定について、特にキャラクターやネーム（コマ割りした状態のラフ）について協議した。

写真 3：岩手大学芸術棟における漫画設定会議の様子

漫画の登場人物として、すでに学生グループにおいてメインキャラクター「心月（しんづき）タクト」は原案（図 3）が確定しており、タロットにおいて「真実への導きを与える」という月の象徴、そして、指揮者のように大勢をまとめ先導できるようなイメージが付与された。制作する漫画においては、この心月タクトが「盛岡アセットマネジメント（通称：盛アセ）の実行員」として登場する。

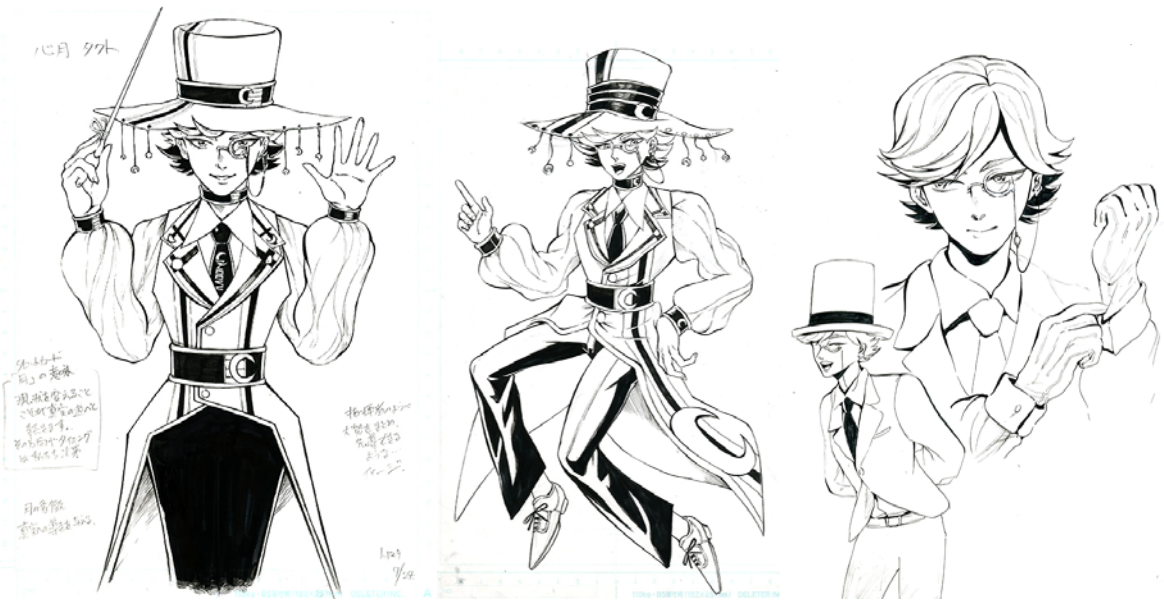


図 3：心月タクト（メインキャラクター）原案（片柳香菜）

助手キャラクターについては、個々の学生が原案（図 4）を持ち寄り、盛岡市財政部資産経営課の方々にプレゼンテーションを実施した。この漫画設定会議から担当課の方々が原案を持ち帰り、後日、助手キャラクターは「石割りさくらこ」（図 4 右）に決定した。

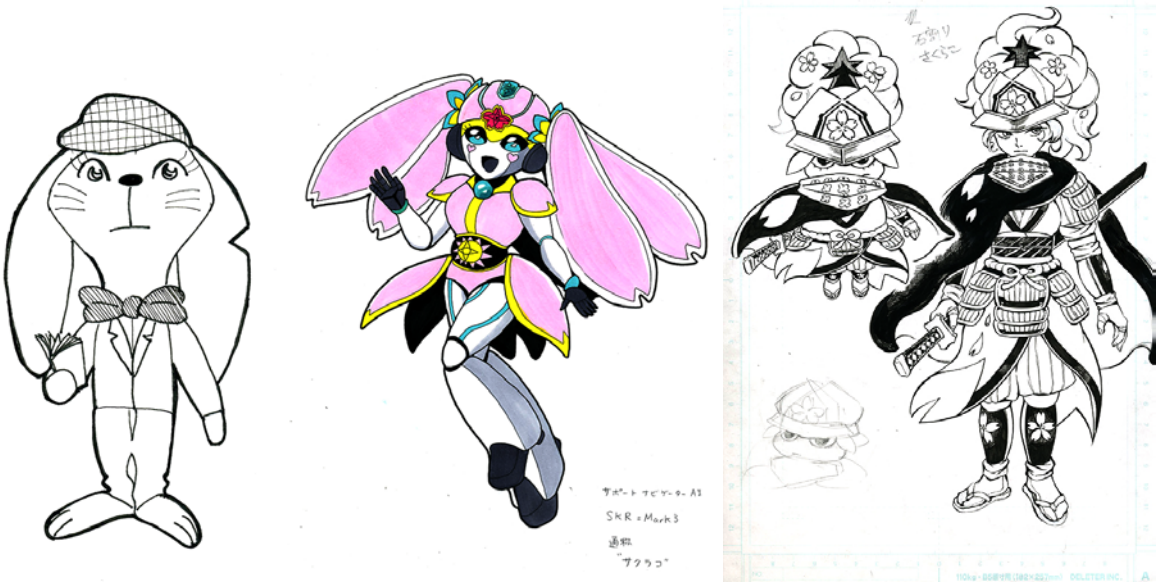


図 4：助手キャラクター原案（吉田翔、梅木結一花、片柳香菜）

また、24 ページに渡るネーム案（図 5）についても担当課の方々が原案を持ち帰り、後日、下記のような修正点の指示を受けた。

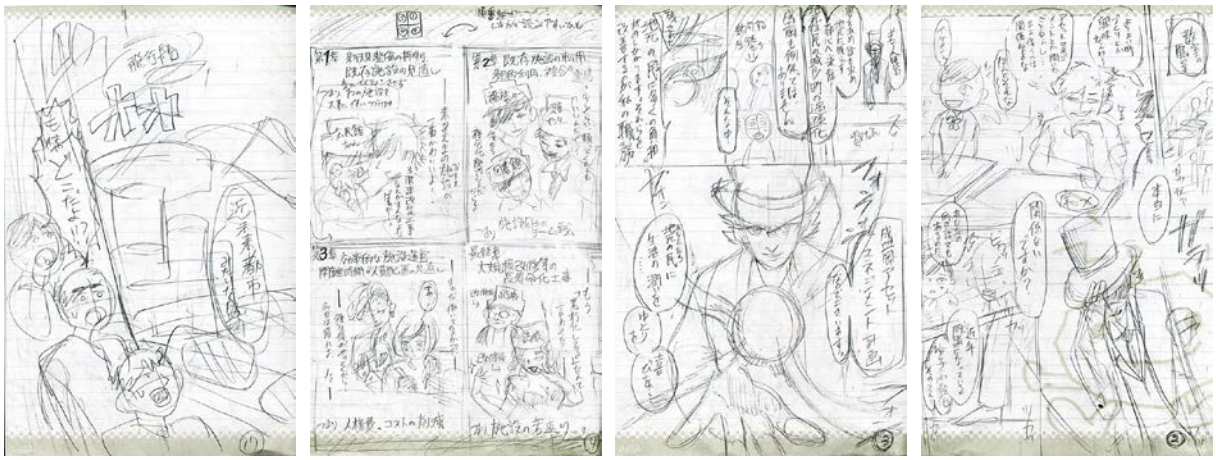


図 5：漫画のネーム案の一部（片柳香菜）

［ネームについての修正点］

・細かい用語の使い方など、今後またセリフが固まってきたら確認させてほしい
（今の時点で大きく誤っているというものはない）

・もっと言葉での説明を簡略化してもらってもいい

・未来の姿として、恐ろしい未来の姿との対比なのだとは思うが、「すごい建物」や「近未来都市」は計画の目指すところとは少し違うのではないか
（施設の新規建設を推し進めるように受け取られてしまうのは避けたい）

［未来の姿についての意見］

・町の賑わいや市民の活気ある様子、建物自体よりも人に着目できないか？
・「まったく新しい建物」ではなく「今ある建物を直した・建て替えた」というようにできないか？
・「崩れた建物がぎゅうぎゅう詰め」と「整備された建物が綺麗に並んでいる」の対比などはどうか？
・いっそ「一見、現代とほとんど変わらない町に見えるけど実は〇十年後」というのは？
・岩手山や北上川など、自然の景観と調和するようなことは必要だと思う

このような指摘を受け、ネーム（図 6）を修正しつつ、文字の説明よりも分かりやすい図解で示すようにして 8 ページにまで省略できるようにした。さらに、このネームについても担当課より細部の修正点を指示（図 7）してもらい、漫画の実制作に入った。

図 6：漫画の修正ネーム案の一部（片柳香菜）

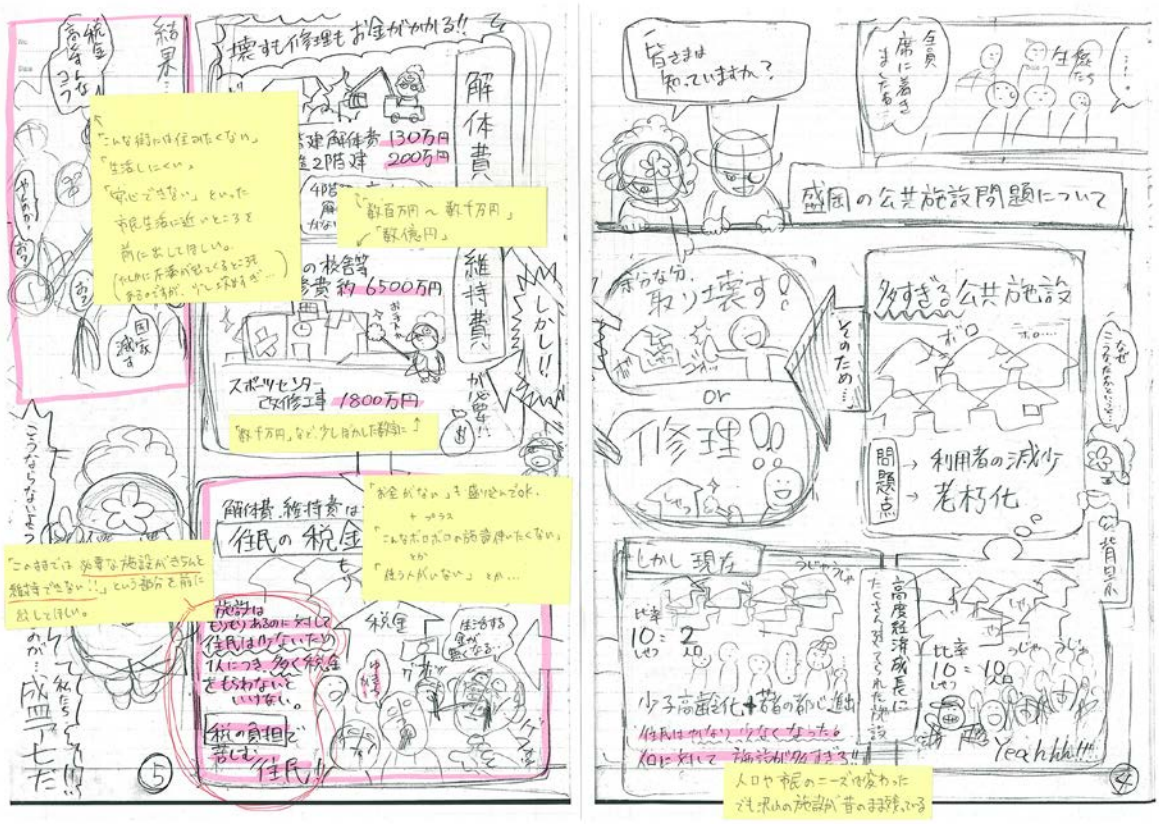


図 7：漫画のネームへの修正指示の事例

ネームが完成し、３年生の片柳香菜を中心に漫画の実制作に取り掛かった。まずは、ネームを元に漫画専用の原稿用紙に下描きし、ペン入れ、トーン貼りというアナログでの作業を行った後、その原稿をスキャナでパソコンに取り込んでデジタルで文字入れを行った。

そうして漫画が完成し、盛岡市財政部資産経営課に完成データを送付した。

図 8：修正が必要となった表現の事例

完成した漫画の４つの解決策を示したページ（図 8）においては、漫画表現に日常的に親しんでいる学生たちにとっては、漫画によく登場する「かべドン」（男性が女性を壁際などに追い詰めて手を壁にドンと突く行為）、「あごクイ」（男性が女性の顎を軽く指で持ち上げる行為）、「ボディタッチ」、そしてセクシーな衣装であったが、この中で、異性間のボディタッチと女性の露出度の高い衣装については担当課より、修正の依頼を受けることになった。

全国の自治体では広告などにおける性的な表現が問題視される事例もあるため、漫画においては許容される表現であっても、一般市民を対象とした今回の漫画においては留意しなければならない観点であることを学んだ。本件においては、セクシュアルハラスメントを誘引するような表現には気をつけるようにし、異性間のボディタッチには修正を入れた。また、女性の衣装は過度に露出度が高くならないように改めた。

最終的には数か所の文字の訂正などもして担当課に送付した修正データは、盛岡市の成人式で配布するために印刷され、また、盛岡市のホームページからのダウンロードが可能になるように設定された。

以下が、完成した漫画である。

平成 29 年度地域課題解決プログラム

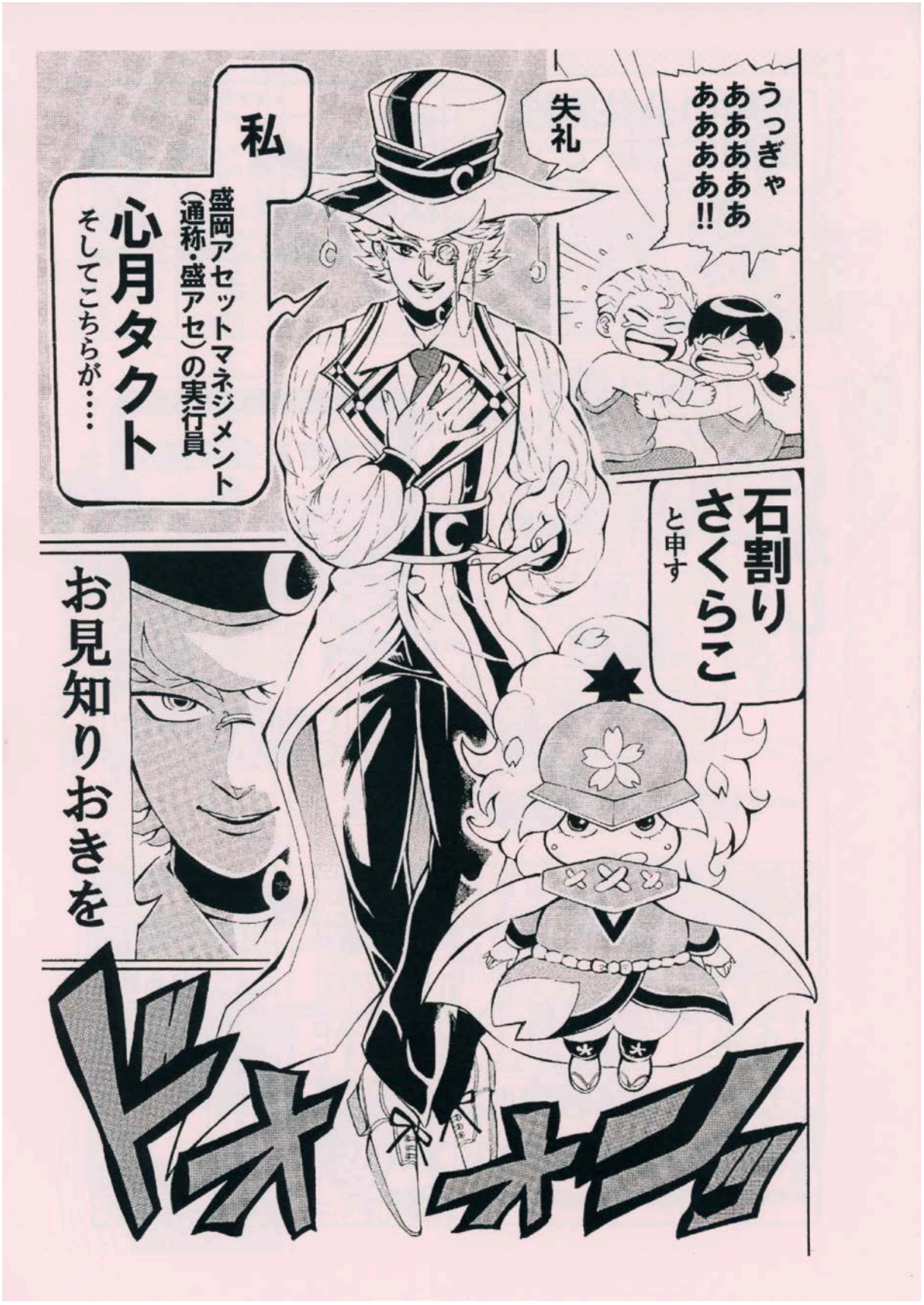
漫画『盛岡アセットマネジメント』 p. 1

平成 29 年度地域課題解決プログラム

漫画『盛岡アセットマネジメント』 p. 2

平成 29 年度地域課題解決プログラム

漫画『盛岡アセットマネジメント』 p. 3



平成 29 年度地域課題解決プログラム

漫画『盛岡アセットマネジメント』 p. 4

平成 29 年度地域課題解決プログラム

漫画『盛岡アセットマネジメント』 p. 5

平成 29 年度地域課題解決プログラム

漫画『盛岡アセットマネジメント』 p. 6

平成 29 年度地域課題解決プログラム

漫画『盛岡アセットマネジメント』 p. 7

平成 29 年度地域課題解決プログラム

漫画『盛岡アセットマネジメント』 p.8

○「盛岡アセットマネジメント」のデジタルサイネージ広告

デジタルサイネージの広告については、３年生の佐野聖汰より、映画のポスターのようなイメージで、完成した漫画の一部を活用することが提案され、その方向で進めることが決定していた。

図 9：デジタルサイネージ用画像（原画：片柳香菜、着彩：成瀬優美）

漫画原稿を元に３年生の成瀬優美が着色を施してデジタルサイネージ用画像（図 9）が完成した。デジタルサイネージ広告の内容は、盛岡市の公共施設アセットマネジメントに関する情報に直接誘導するというよりも、まずは、漫画の絵柄などでインパクトを強め、興味を持ってもらい、そこから公共施設問題に気づくような設定となっている。

[デジタルサイネージでの広告]
・場所：イオンモール盛岡（前潟） ２階フードコート内
・期間：平成 30 年 3 月 1 日～5 月 31 日（掲示予定）
・頻度：約 9 分に 1 回（15 秒間）放映

以下が、ディスプレイに映される予定の原稿案（図 10）である。

図 10：デジタルサイネージ掲載イメージ

○「盛岡アセットマネジメント」資料用イラスト案

盛岡市による公共施設アセットマネジメントの説明資料用に、３年生の鈴木祐衣がイラスト（図 11）を制作した。

図 11：資料用イラスト（さくらこちゃんちびキャラ版）（制作：鈴木祐衣）

○最後に

本研究課題として制作した漫画は、平成 30 年 1 月 7 日（日）、**盛岡市の成人式で約 2100 名の新成人に配布**された。また、下記よりダウンロードが可能になっている。

・検索キーワード：「盛岡アセットマネジメント　漫画」

漫画『盛岡アセットマネジメント』（PDF 2.8MB）QR コード

本研究課題の取り組みについては、下記の盛岡市の Web ページでも紹介された。そして、一つの指標として、この Web ページにある Facebook の「SNS シェアボタン」を参照すると、**「シェア 132」**（平成 30 年 3 月初旬現在）であった。このことから、ある程度の話題性は持ちえたと思われる。

以上が本研究課題の成果である。盛岡市に限らず、自治体は公共施設マネジメントの問題を抱えており、市民にこの問題を理解してもらうために漫画を一つの手段として採用している自治体は全国には（鎌倉市、小平市、武蔵野市、富士宮市、豊川市、深谷市、伊丹市、千葉市など）複数ある。今回、学生たちの力で制作した漫画やロゴマークが、盛岡市の公共施設の問題解決に向かうように作用し、今後も継続して活用してもらえるのならば幸いである。

・岩手大学の地域課題解決プログラムでの取組み（盛岡市公式ホームページ）：

http://www.city.morioka.iwate.jp/shisei/machizukuri/shitsuhoyu/1020220.html

[謝辞]

本研究活動におきましては、盛岡市財政部資産経営課の加藤英樹さん、小出史朗さん、宍戸秀樹さん、佐倉友季絵さんにお世話になり、貴重な学習の機会をいただきましたことに心から感謝いたします。